
花巻市の地域経済循環分析

2018年3月2日

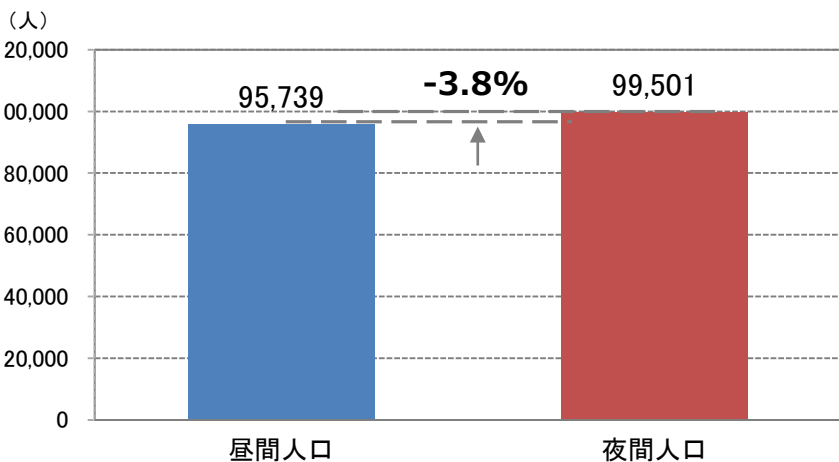
目次

1. 花巻市の地域経済循環分析の概要
2. 花巻市の課題と取組の方向性

1.花巻市の地域経済循環分析の概要

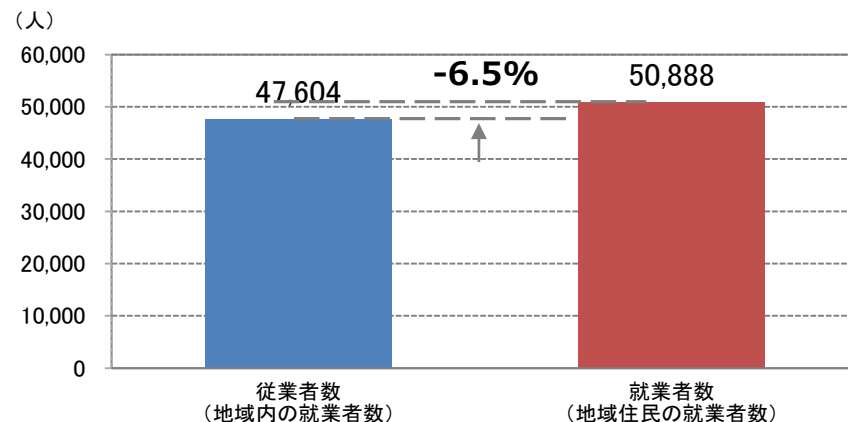
地域の概要（花巻市）

① 夜間人口・昼間人口（2013）



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

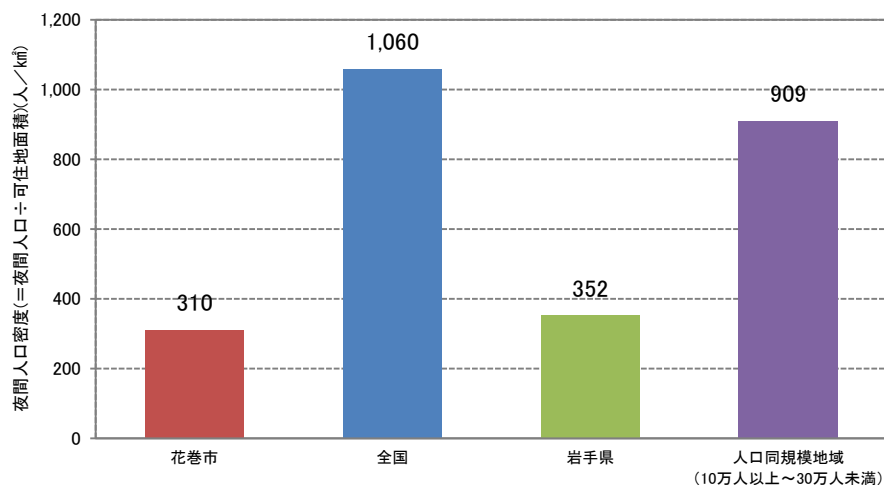
② 就業者数と従業者数（2013）



注）従業者数は、従業地における就業者の数（域外からの通勤者を含む）である。
就業者数は、常住地の住民の就業者の数（域外への通勤者を含む）である。

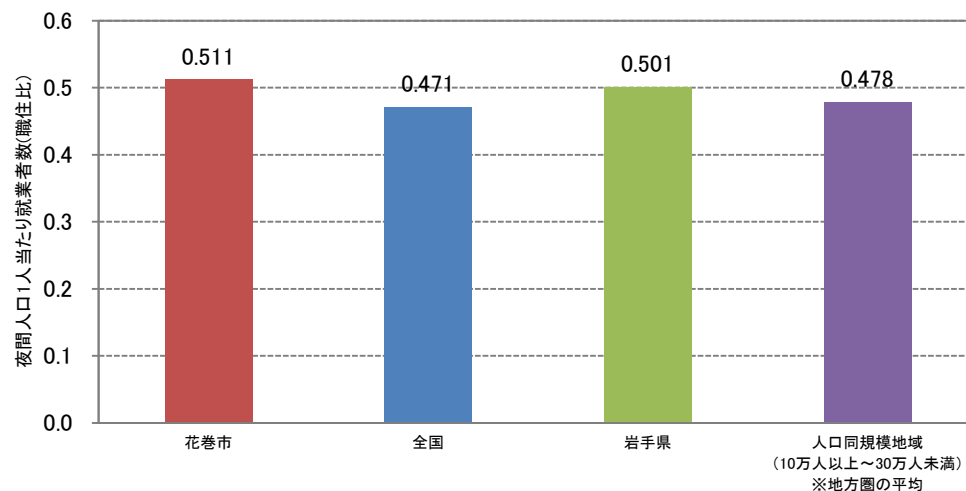
出所：総務省「平成22年国勢調査」、「平成21年・平成26年経済センサス-基礎調査」より作成

③ 夜間人口密度（＝夜間人口／可住地面積）



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、「統計でみる市区町村のすがた2012」より作成

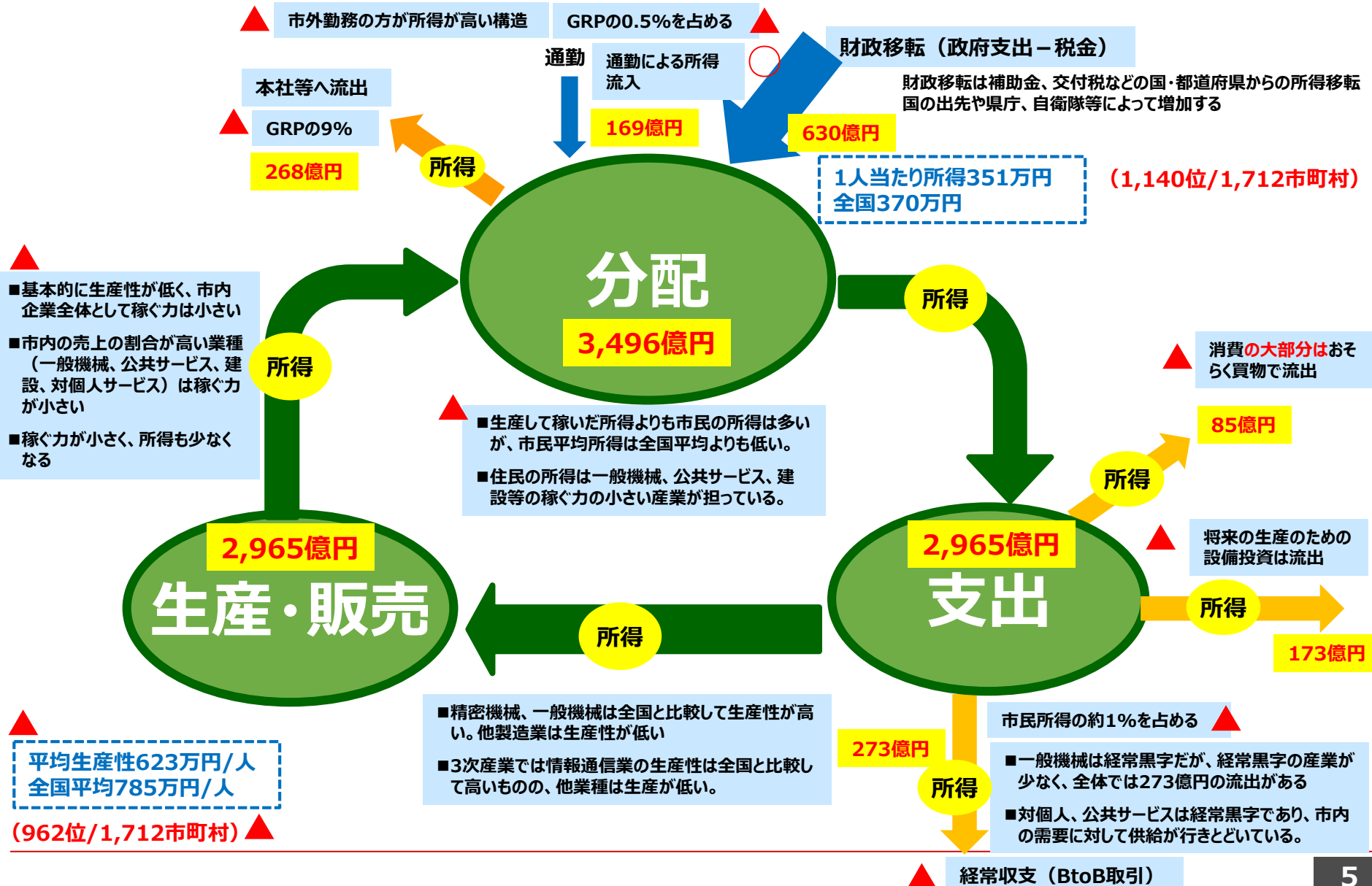
④ 夜間人口1人当たり就業者数（職住比）



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

地域経済循環分析：全体の構造

地域の稼ぐ力は弱いが住民所得は高く、財政移転に依存した構造である



参考) RESAS地域経済循環分析図

地域経済循環率

84.8%

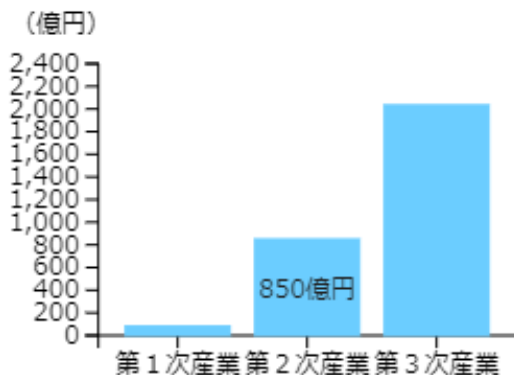
地域経済循環図

2013年

指定地域：岩手県花巻市

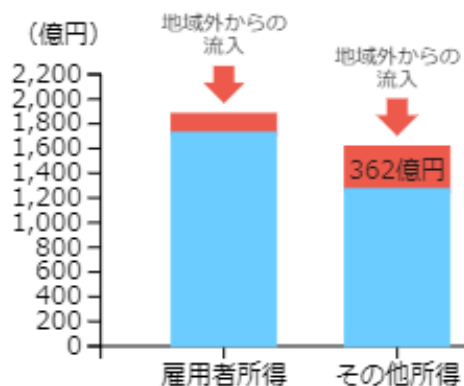


生産（付加価値額）



詳細を見る

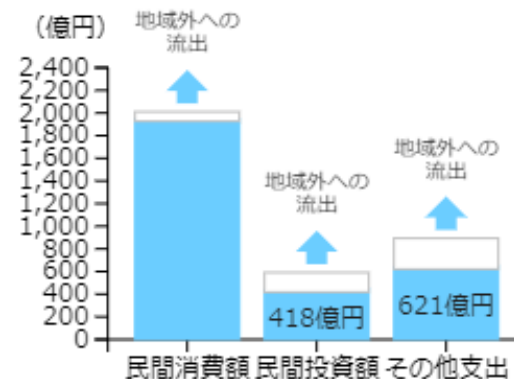
分配（所得）



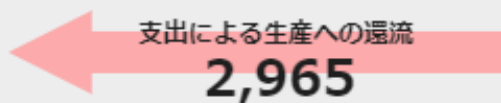
詳細を見る



支出



詳細を見る

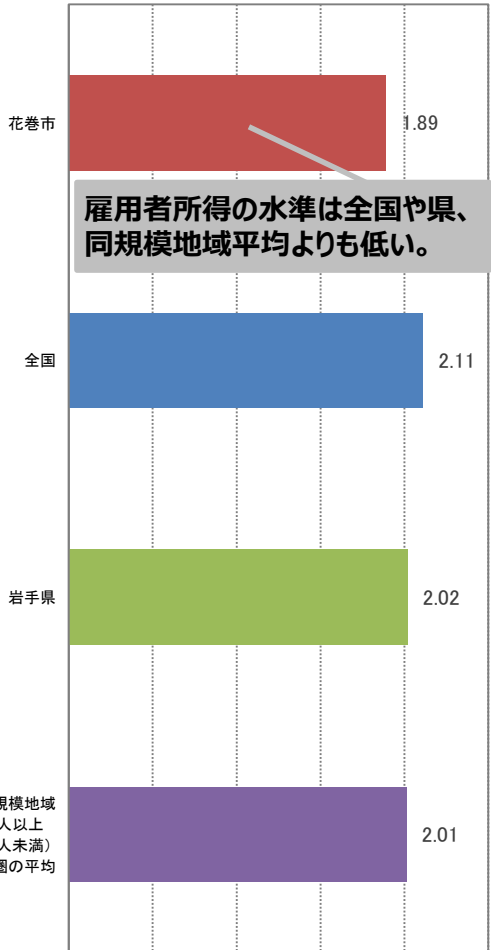


住民1人当たり所得（花巻市）

①夜間人口1人当たり雇用者所得

夜間人口1人当たり雇用者所得(百万円/人)

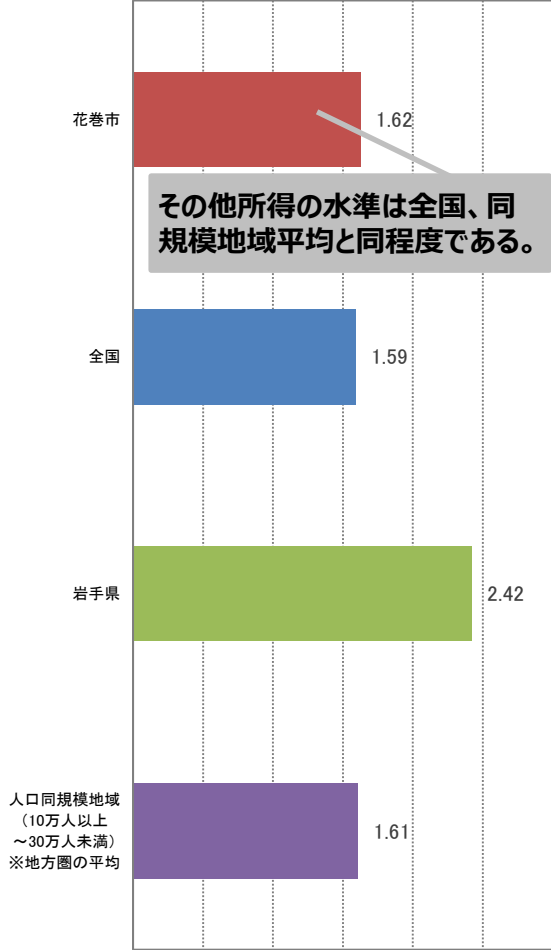
0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5



②夜間人口1人当たりその他所得

夜間人口1人当たりその他所得(百万円/人)

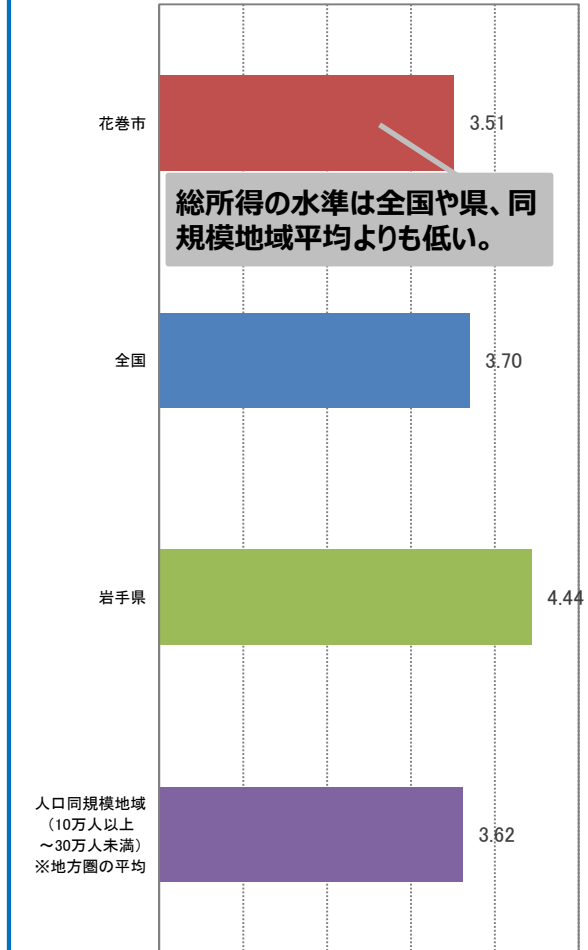
0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5 3.0



③夜間人口1人当たり所得 (=雇用者所得+その他所得)

夜間人口1人当たり所得(百万円/人)

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0

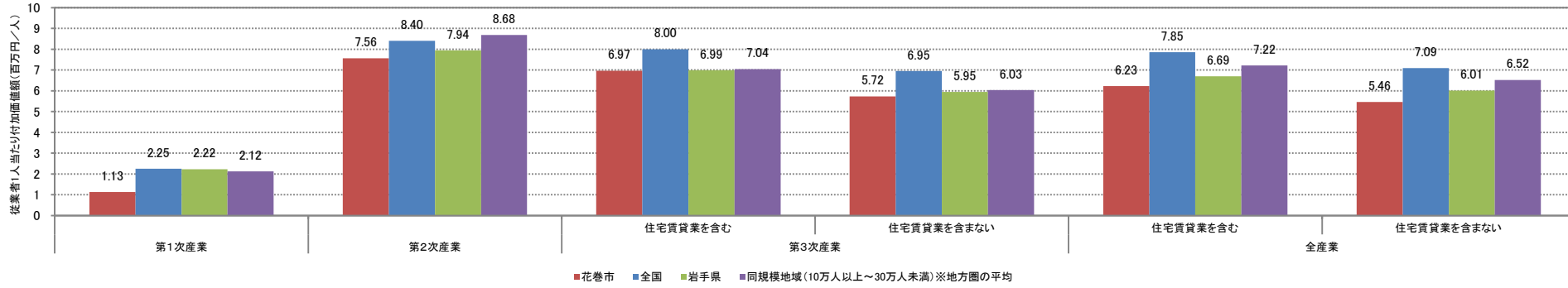


注1) 雇用者所得は、地域内の生産活動によって生み出された付加価値のうち、労働を提供した雇用者への分配額である。

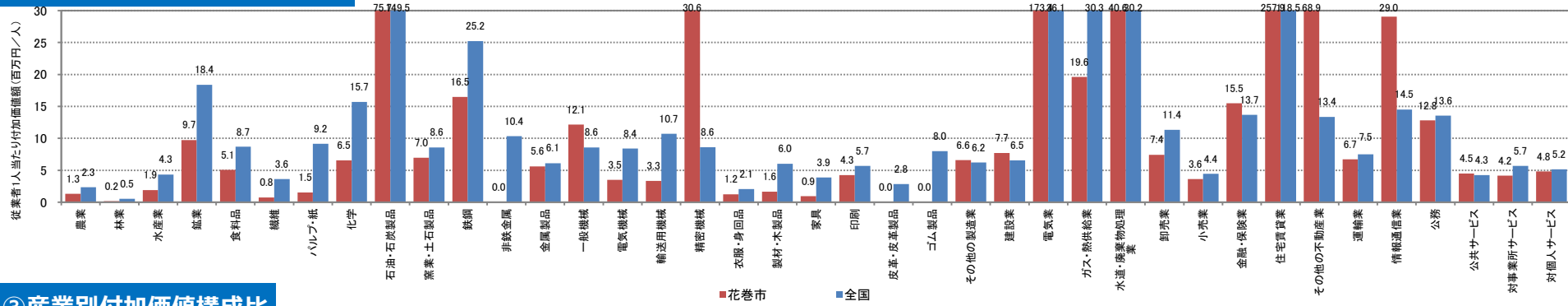
注2) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転（交付税、補助金等）等が含まれる。

地域の稼ぐ力 (花巻市)

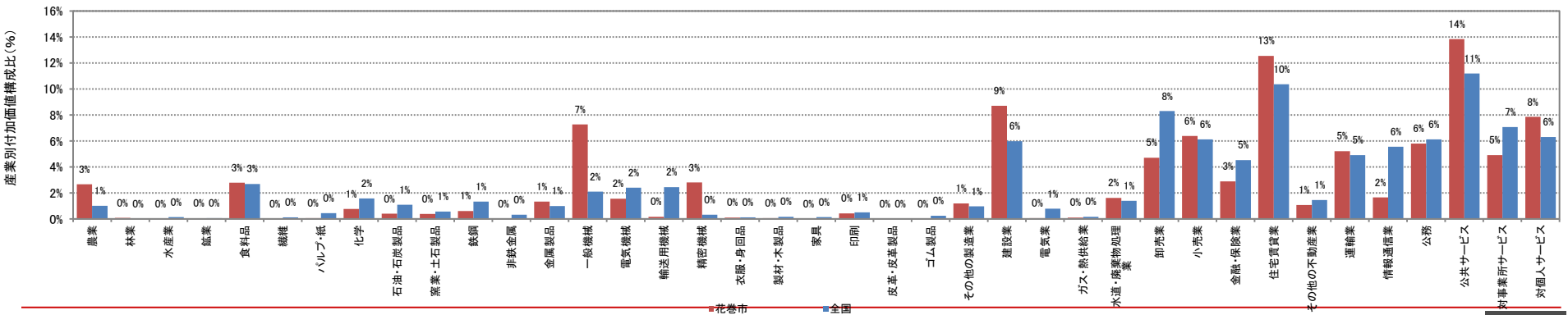
① 産業別労働生産性



② 産業別労働生産性 (39産業)

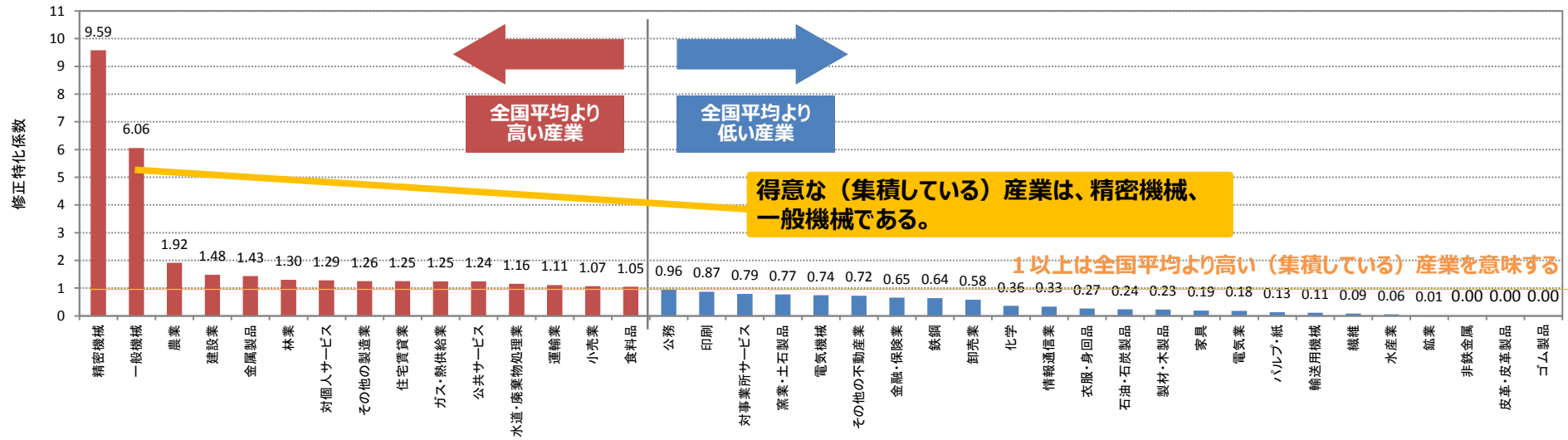


③ 産業別付加価値構成比

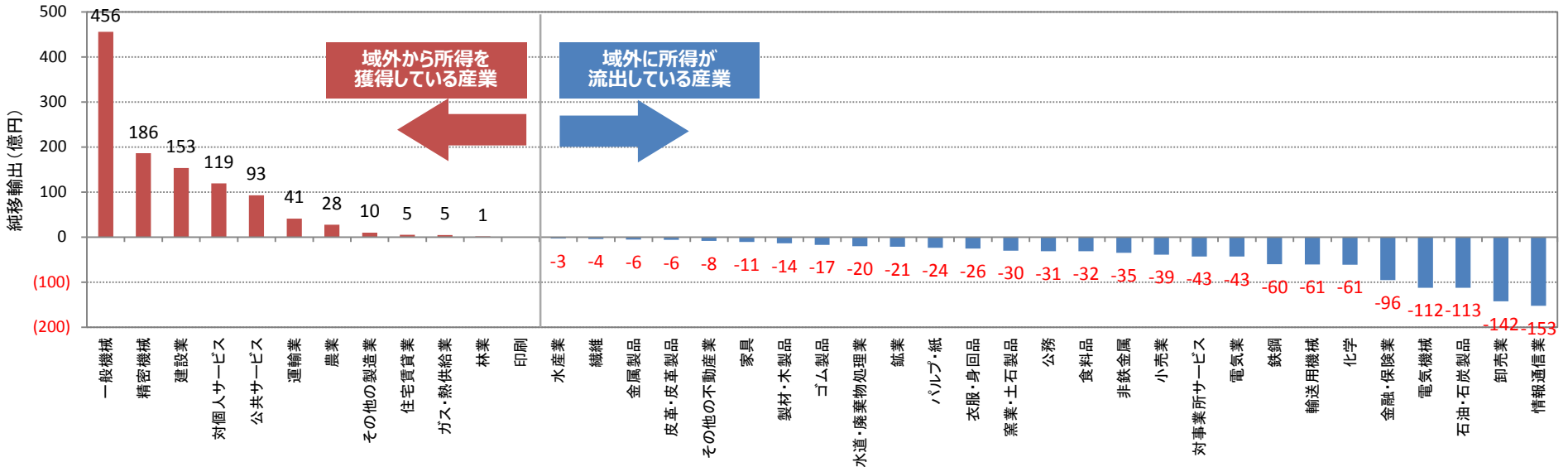


地域の得意な産業と域外から稼ぐ産業（花巻市）

①得意な産業：修正特化係数（生産額ベース）



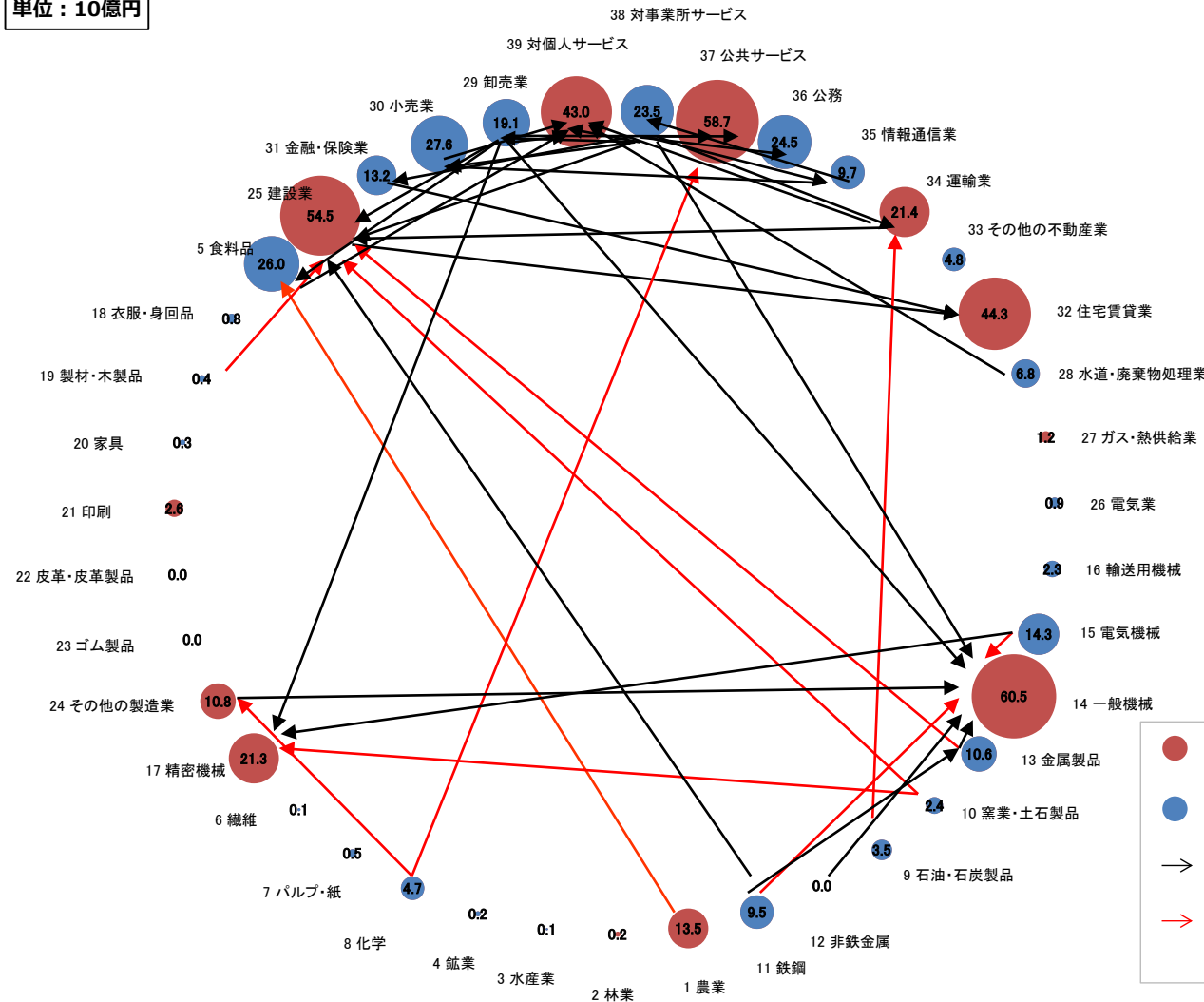
②外から稼ぐ産業：産業別の純移輸出額



地域の産業間取引構造（花巻市）

産業間取引構造

単位：10億円



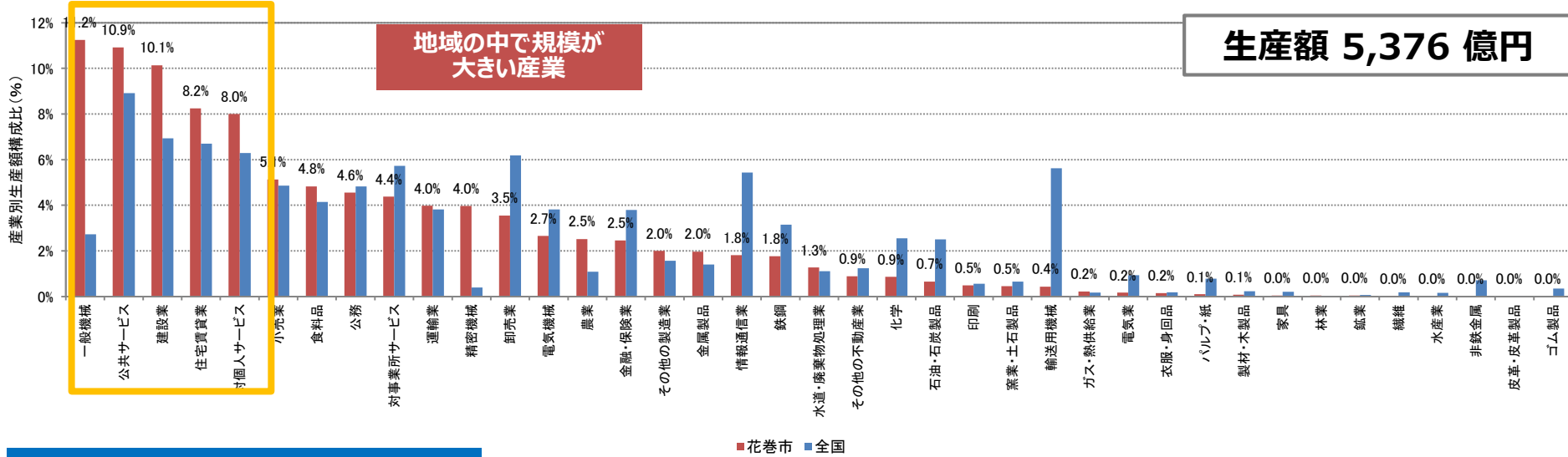
「一般機械」は、地域内では主に「電気機械」「鉄鋼」等から原料等を調達している。

しかしながら「電気機械」「鉄鋼」は域外からの移輸入に頼っており、「一般機械」の需要を域内生産では賅いきれていないことが分かる。

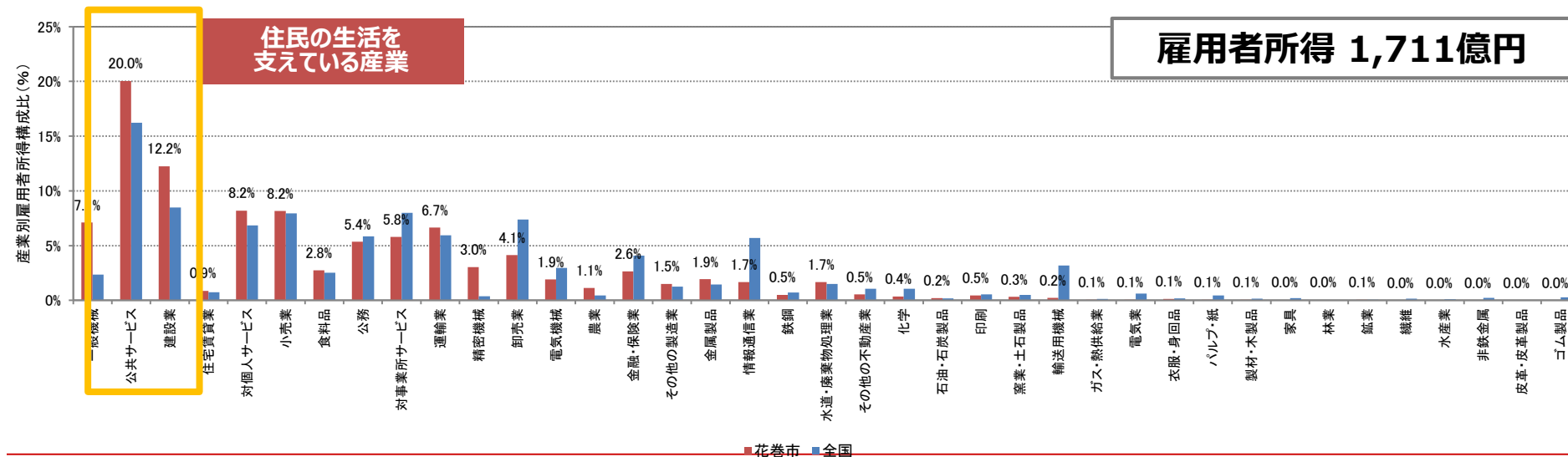
- 純移輸出額がプラスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 純移輸出額がマイナスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める取引
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める、かつ当該産業の地域内生産額の30%以上を占める取引

産業別の生産額・雇用者所得（花巻市）

① 産業別生産額（売上）



② 産業別雇用者所得（人件費）

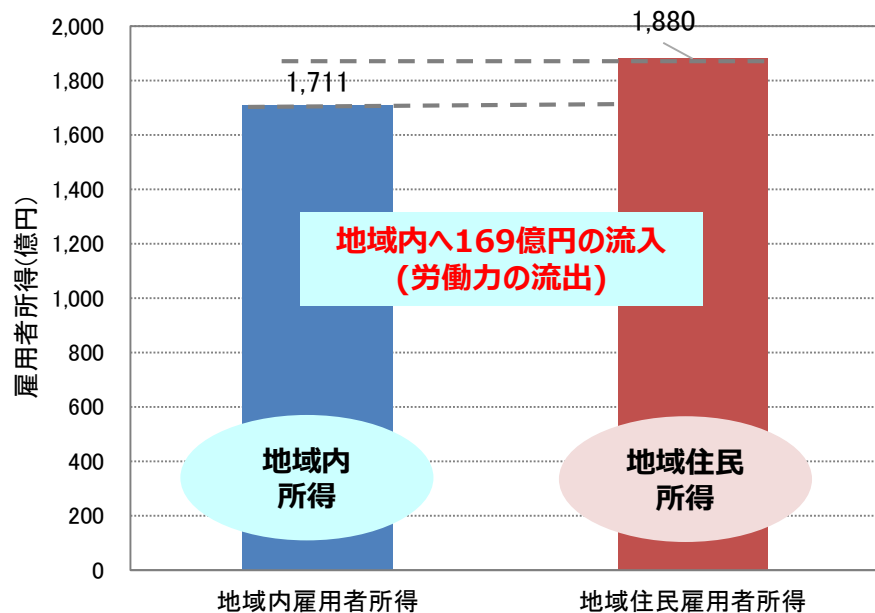


地域住民の分配所得（花巻市）

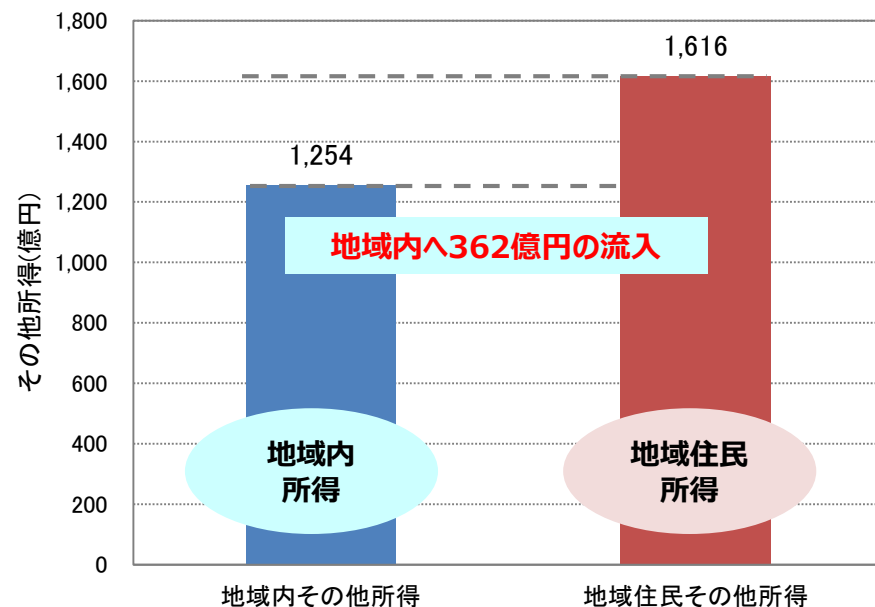
- ✓ 地域住民が得た雇用者所得の方が、地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得よりも169億円多く、地域内へ雇用者所得が流入している。
- ✓ すなわち、労働力が流出することにより、雇用者所得が流入している。

- ✓ 地域住民が得たその他所得の方が、地域内で企業が生産・販売で得たその他所得(内部留保、配当等)よりも362億円多く、地域内へその他所得が流入している。
- ✓ その他所得の268億円（GRPに対し9%）が、本社等へ吸い上げられている。

① 地域内雇用者所得と地域住民の雇用者所得の比較



② 地域内その他所得と地域住民その他所得の比較



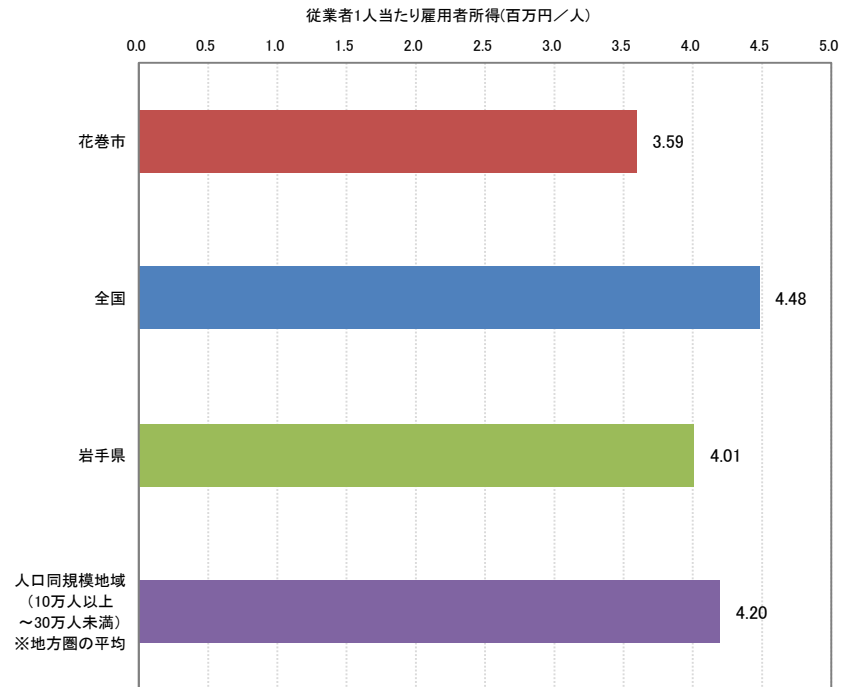
注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転（交付税、補助金等）等が含まれる。

1人当たりの雇用者所得の水準（花巻市）

- ✓ 従業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ 特に、岩手県内で比較しても42万円も小さく、市内で勤務している従業者の雇用者所得が小さいことがわかる。

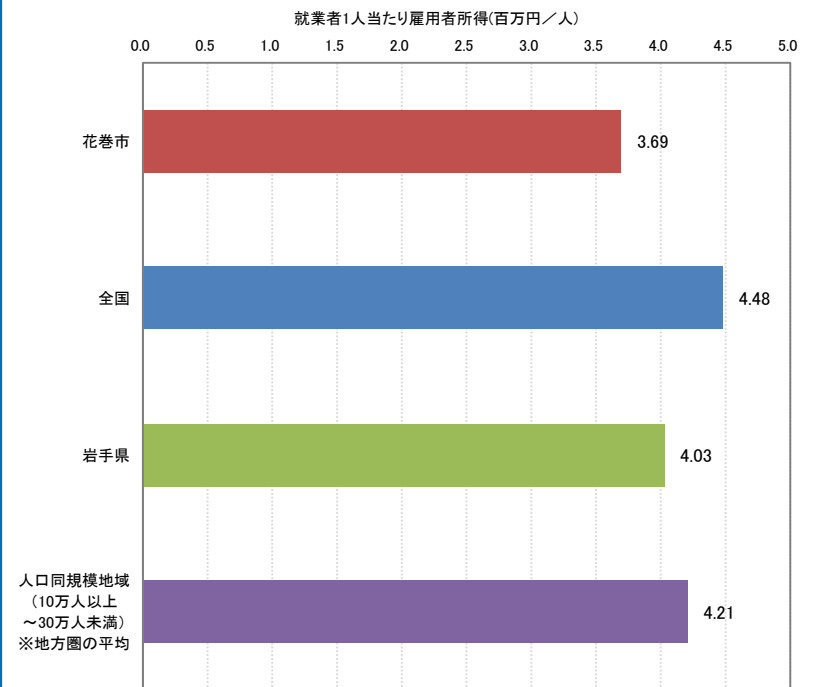
- ✓ 就業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ また、従業者1人当たりと比較して、花巻市民の就業者1人当たり雇用者所得は10万円程度大きく、市外の企業・事業所に勤務している市民の方が若干所得が高い

① 従業者1人当たり雇用者所得（従業地ベース）



注) 雇用者所得は、地域内（域外からの通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

② 就業者1人当たり雇用者所得（居住地ベース）



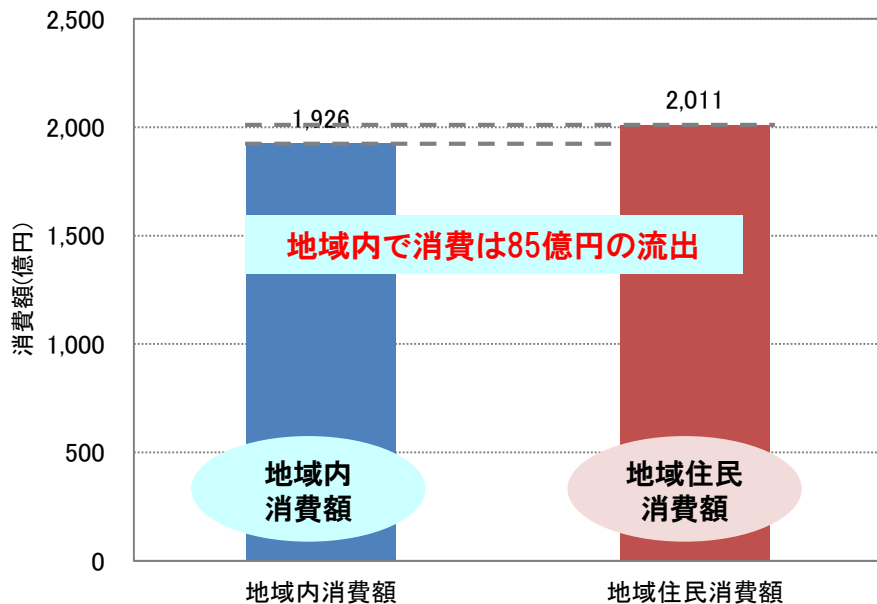
注) 雇用者所得は、地域住民（域外への通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

消費・投資の流入・流出（花巻市）

✓ 地域内で消費される額が、地域の住民が消費する額よりも85億円程度少なく、消費が流出している。

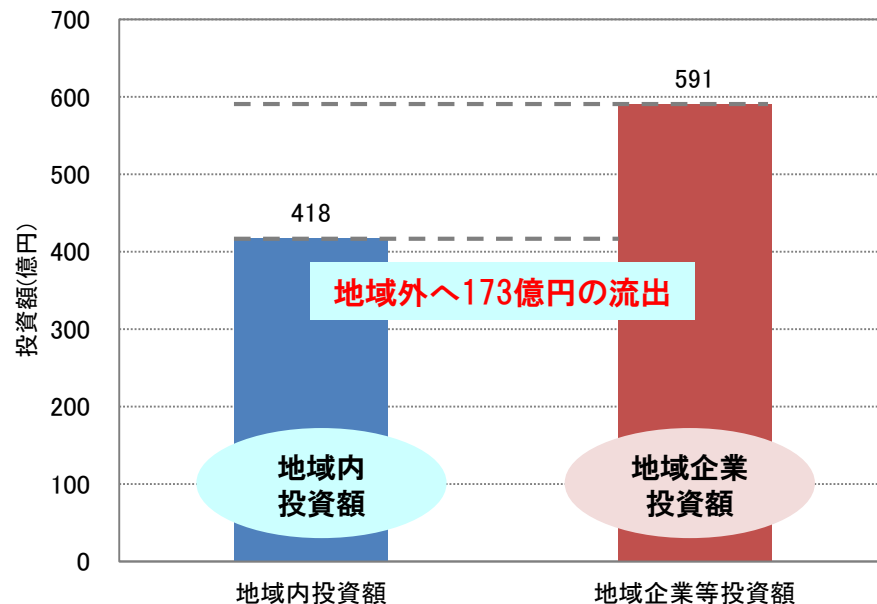
✓ 地域内に投資される額が、地域内の企業が投資する額よりも173億円程度少なく、地域外に投資が流出している。

①消費の流入・流出



注) 地域内消費額は、地域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。
地域住民消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

②投資の流入・流出



注) 投資額＝民間投資＋民間在庫品増加
地域内投資額は、地域内の投資額(誰が投資したかは問わない)を表す。
地域企業投資額は、地域内の企業・住民の投資額(どこに投資したかは問わない)を表す。
投資額は年次による額の変動が大きい点に留意する必要がある。

2.花巻市の課題と取組の方向性

花巻市の長所

花巻市は、精密機械業、一般機械業などの稼ぐ力が強く、労働生産性が高い。

①花巻市は、一般機械業が中心となって産業を牽引している。

- 花巻市では、労働生産性の高い一般機械業が産業の中心となって、花巻市の産業を支えており、多くの所得を稼いでいる。

②花巻市は、精密機械業、建設業等も域外から所得を獲得している

- 花巻市では、労働生産性が高く、かつ外から稼ぐ力が強い産業として、精密機械業、建設業がある。
- 外から稼ぐ力が強い産業として、対個人サービス業（旅館業等）、公共サービス業がある。
- 労働生産性が高い産業として、情報通信業がある。

③花巻市は、財政移転をうまく活用し、域外から所得を獲得している。

- 花巻市には630億円の財政移転があり、地域住民の所得を押し上げる要因となっている。

花巻市の短所

花巻市は労働生産性が低く、設備投資が流出している。

①花巻市は2,965億円の付加価値額を計上しているが、稼ぐ力は弱い。

- 花巻市の付加価値額は2,965億円稼いでいるものの、全産業の1人当たり付加価値額（＝労働生産性）を見ると、全国、県、人口同規模地域と比較して低く、稼ぐ力は弱いと言える。
- 全産業を通じて労働生産性が低いが、特に第1次産業は域外から所得を獲得しているにもかかわらず、全産業の1人当たり付加価値額が全国の約半分となっている。

②花巻市の所得水準は、全国平均より若干低い。

- 最終的に住民が得る夜間人口1人当たり所得において、全国平均、県平均、人口同規模地域平均より低くなっている。
- 地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得よりも、地域住民が得た雇用者所得の方が169億円多いことから、花巻市よりも給料の高い近隣市町村に労働力が流出している。

③花巻市で稼いだ所得は、消費前に域外へ流出している。

- 花巻市では、域内総所得の約1割（268億）が、本社等がある域外へ流出している。

④将来の生産のための設備投資は流出している

- 花巻市では173億円の設備投資が流出している。
- 地域内で消費される額が、地域住民が消費する額よりも85億円少なく、消費が流出している。

花巻市の今後の取組の方向性①

地域資源を活用し、生産性の向上を図る施策を展開する。

① 農商工等連携及び6次産業化を推進し、域内調達を高めると共に付加価値額を向上させる。

- 農業（農畜産業等）は域外から所得を獲得しているが、食料品業（食品加工等）は域外からの移輸入に頼っている。このことから、一次産業者は農畜産物を原料のまま、域外及び地域外の食品工場等に販売していることが考えられる。
- 農商工等連携の推進を図り、食料品業の域内調達率を高め、域内で所得を循環させる。また、農商工等連携の取組みの中で、2次・3次産業のノウハウを取得した1次産業者が、6次産業化にステップアップし、1次産業者自身が付加価値額向上に結び付く構造を構築する。
- なお、当市の1次産業者が商品開発を行う際、マーケティング・デザイン・プロモーションなどソフト面がボトルネックになる傾向が高いため、ハード面以外の支援策も拡充させ事業を後押しする。

② 観光客の流入を活かし、地域内で所得を循環させる。

- 温泉等の観光資源により、観光客の消費流入は相当程度あると考えられる。しかし、特にお土産品に関して、域外資本から調達した商品が多いことから、所得が域外に流出している。
- 地域企業が地域資源を活用（域内調達率を高める）し、商品開発・製造・販売することで、域外からの消費流入を増やす。
- なお、マーケティング調査・試作品開発等初期投資を行う場合には、補助金などより支援を行う。その際、6次産業化や域内での農商工等連携に関する事業については、補助率を上げ集中的に支援を行う。
- 地域商品の売上が伸び、設備投資など投資需要が増えた段階で、地域金融機関と連携し、域内外からの融資を獲得する。

花巻市の今後の取組の方向性②

地域企業でクラスターを形成し、所得が波及する構造を構築（所得循環構造構築）

① 誘致企業とのクラスター形成

- 従来型の企業誘致を進めても、IT、FA（ファクトリーオートメーション）の進展、非正規雇用の増加等によって雇用増などの地域経済の活性化につながりにくいケースが増えている。
- 当市の場合、域内総所得の約1割が誘致企業の本社等に流出していることから、このケースに近い傾向にある。
- 誘致企業を含め川上・中・下産業の企業が、うまくクラスター形成を行い、域内での産業間取引構造を構築することで、域内での所得を循環させ、本社等への流出割合を減らす（域内総所得を増加させる構造）。
- そのためにも、当市の得意な産業の関連産業に注力して誘致を行う。

② 域内調達の活性化を図り、域外からの流入体制を構築

- 地理的な集積だけでなく、Face to Faceのコミュニケーションや地域のネットワークを活かし、域内調達の活性化（クラスター化）を図り、販売先と調達先の結びつきを強化する。
- また、域内取引の核となる産業の育成を図り、地域全体の労働生産性を引き上げる（牽引企業を集中支援）。
- 得意産業は域外から所得を稼ぎ、不得意な産業は域外へアウトソーシングすることで、全体としての取引のメリットを高める。